

医心 伝心

新専門医制度のスタート

富山県医師会理事 川端 雅彦

医師へのアンケート「2018年の注目トピックスは？」の集計結果によると、1位が新専門医制度の行方、2位が診療報酬・介護報酬同時改定、3位が医師の働き方改革の行方、とのことでした。私たちの大きな関心事である「新専門医制度」が、紆余曲折を経てこの4月からスタートしました。私の勤務する臨床研修病院でも10名の専攻医が採用され、4月から研修（仕事）を始めています。

1) 富山県内の専攻医採用数

富山県内の専門研修プログラムに応募し採用されたのは54名です（3月15日現在、三次募集まで）。北陸では石川県が110名、福井県が39名です。石川県との差に少し驚かれるかもしれませんが、石川県には大学医学部が2校あります。1校の富山県の2倍と考えれば、石川県との違いは納得かもしれません。全国の総登録者数が8,409名ですので富山県の専攻医数の全国比は0.64%と算出されます。人口の全国比（0.84%）に比べるとやや少なく、後に述べる都市部への専攻医集中の影響もありそうです。

2) 県内で初期研修を修了した医師の進路

富山県ではこの春、72名の医師が初期研修を修了しました。このうち44名が県内のプログラムを希望し採用され、残りの28名は県外の研修プログラムに採用されています。28名のうち20名は石川県内のプログラムです。逆に県外で初期研修を終えて富山県内プログラムに応募、採用されたのは10名です。結果として、数字上の収支は10マイナ

ス28で18名の減少になりました。

3) 専攻医の都市部偏在

東京都は1,825名と、全体の21.7%の専攻医を集めました（東京都の人口全国比:10.6%）。専門医機構は神奈川県、愛知県、大阪府、福岡県を加えた5都府県を「都市部」と定義しました。この「都市部」での専攻医の合計数は3,872人でした。全体の実に46%の専攻医が「都市部」で採用されています。若い彼らの大都市志向との見方もありますが、都会には大学附属病院や（魅力的な？）臨床研修病院が多いという現実を反映しています。機構は、今後さらに「都市部」での専攻医採用数を制限すると予想されます。

4) 専攻医が選択した専門領域

一次登録時点での専門領域別採用数（専攻医の9割が登録）が、機構から発表されています。その順位は、①内科（32.4%）、②外科（9.8%）、③小児科（6.8%）、④整形外科（6.6%）、⑤麻酔科（5.9%）、以下、産婦人科、精神科、眼科の順で続きます。これが今の若い医師のトレンドです。新専門医制度で今回注目の総合診療科はこの時点では153名で、やや期待はずれの数だったのかもしれませんが。

より多くの専攻医を県内に集める（残す）には、私たち臨床研修病院や大学附属病院の魅力、富山県医療の魅力をさらに高める努力が必要と考えています。